

CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 10 No.21 2008年11月30日号

編集:editor@cna.jp 広告:pr@cna.jp 読者登録:<http://cna.jp>

Copyright 2008 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

ポリコムジャパン、1080p 対応のビデオ会議システムを発表



Polycom HDX 8006

ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)は、フルHD対応ビデオ会議システム「Polycom HDX 8006」を発表した。(11月12日)

Polycom HDX 8006は、映像解像度が1080pと720p/60fpsのHD(ハイデフィニション)に対応し、従来のSD(スタンダードデフィニション)解像度に加え、ハイビジョン放送レベルの映像品質も提供することが可能になった製品。

1080pや720pは、映像信号フォーマットのひとつで、走査方式はプログレッシブで有効走査線はそれぞれ1080本と720本。画素数は、1080pが1920x1080、720pが1280x720。またfpsは、Frame per secondの略で、60fpsの場合、1秒間に60フレーム/秒の映像を表示するという意味。ちなみに従来のSDビデオ会議では、CIF(352x288)や4CIF(704x576)が標準的な解像度。そのためHDに対応することでハイビジョン放送レベルの高品質な映像が送受信で

きるようになった。

映像の高品質化に加え、Polycom HDX 8006は、超広帯域ステレオ音声「Siren22 StereoSurround(サイレン 22ステレオサラウンド)」やHD品質でのコンテンツ共有、さらに、同社が特許を持つパケットロス時の映像・音声修復機能「Lost Packet Recovery(ロスト パケット リカバリ)」にも対応している。

「Polycom HDX 8006は、ネットワークの帯域幅やアプリケーションニーズに応じて解像度を柔軟に調整することができ、あらゆる帯域幅で最高レベルの品質(Polycom UltimateHD)でビジュアルコミュニケーションを提供する。また現在世界で導入されている150万を超える国際標準に準拠したビデオ会議システムともシームレスに通信は可能だ。」(ポリコムジャパン)

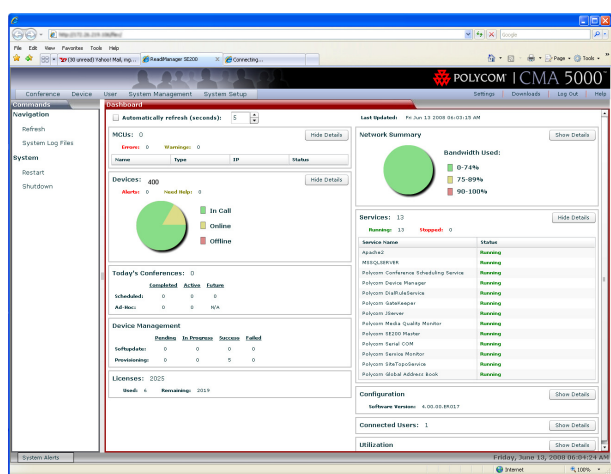
1080pと720p/60fpsは、今回発表されたPolycom HDX 8006の他、テレプレゼンスソリューション「Polycom PrealPresence Experience(RPX)」と「Polycom Telepresence Experience(TPX)」、そして、リアルタイムメディア会議プラットフォーム「Polycom RMX 2000」(次期バージョンで対応)などの製品ラインで提供される。

Polycom 1080p HD対応ビデオ会議システムは12月からポリコム認定販売代理店を通して販売開始する予定。メーカー希望小売価格は、276万円(税別)からとなっている。

またPolycom HDX 8006と自立型スタンドと組み合わせた「Polycom Media Center(ポリコムメディアセンター)」と「Executive Collection(エグゼクティブコレクション)」でも提供する。1台または2台のフルHD対応50インチプラズマディスプレイとオーディオシステムシステムを自立型スタンドで統合したシステム。

ポリコムジャパン、ビデオ会議ネットワーク管理システムとデスクトップビデオ会議ソフトウェアアプリケーションを一体で提供するソリューションを発表

ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)は、企業のビデオ会議ネットワークの導入と管理やユーザによるビデオ会議システムの利用を簡略化する「Polycom CMA(ポリコムシーエムエー)」「Polycom Converged Management Application(ポリコム・コンバージド・マネージメント・アプリケーション)」を発表した。(10月15日)



Polycom CMA 操作画面

Polycom CMA は、ビデオ会議ネットワーク管理システム「Polycom CMA」とデスクトップ型ビデオ会議ソフトウェアアプリケーションを提供する「Polycom CMA デスクトップ」から構成され、相手、場所、時間を問わず、あらゆるデバイスからの通信を可能にするという Polycom VC2 ビジョンを具現化したビデオ会議ソリューション。Polycom CMA は、ポリコムの戦略的なユニファイドコミュニケーションパートナーであるアバシア、IBM、マイクロソフト、ノーテルなどとの統合を将来的に強化する基盤になるという。

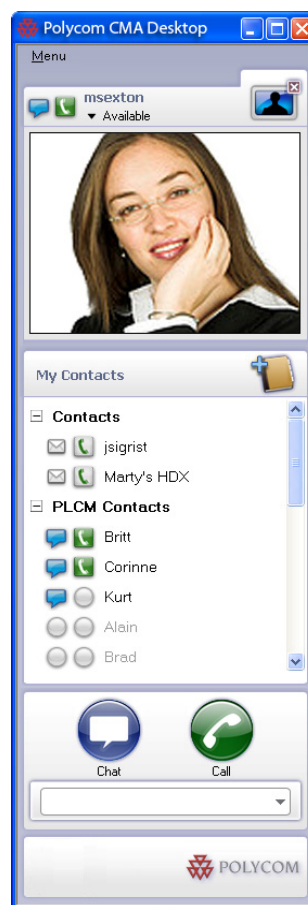
Polycom CMA は、ビデオ会議端末の一元管理やゲートキーパー、スケジュール、ディレクトリなどの管理、ソフトウェアアップデートの自動化、ビデオ会議端末とビデオ会議インフラのポリシーベースのプロビジョニング設定、ネットワークポリシーの管理、そして運用要件に応じた帯域管理など包

括的な管理機能を提供することが可能だ。全ての通話ポリシーは、CMA サーバで一元管理され各ビデオ端末に適用されている。

またビデオ会議端末、インフラ装置をサポートし、社内 IT ポリシーやディレクトリーサーバなどとのシームレスな統合が可能。たとえば、アクティブディレクトリー、LDAP/H.350 ディレクトリの他、マイクロソフト Outlook、IBM Lotus Notes あるいは、Web インターフェイスをもったスケジュールシステムと連動させることができる。

その他国際標準に準拠した XML によるプロビジョニングや XMPP によるプレゼンス機能、AES や TLS 証明書による暗号方式などもサポートしている。

一方 Polycom CMA デスクトップは、PC向けのビデオ会議ソフトウェアアプリケーション。プレゼンス情報(オンライン、オフライン、通話可能、話し中など)をベースに通話の相手方を選択することで簡単にビデオ会議が行える。ポリ



コムの HD Video、HD Voice、HD Content(H.239 コンテンツ共有)の受信に対応。
Polycom CMA デスク
トップ

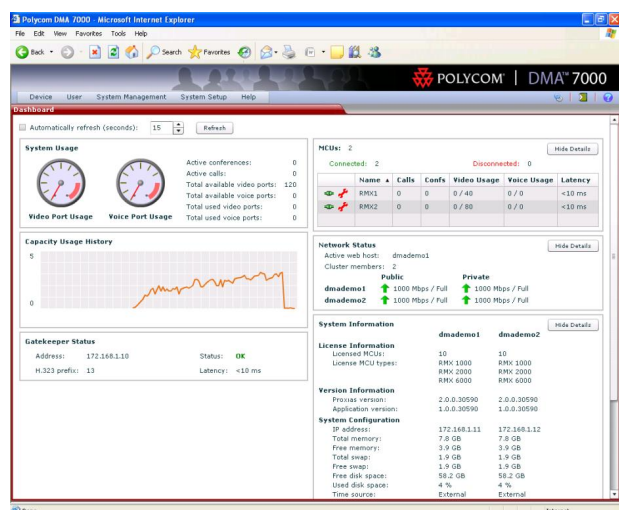
従来のビデオ会議ソフトウェアアプリケーションは、独立したソフトウェアクライアントとして導入され、操作や帯域幅の利用の管理は制限されていたが、Polycom CMA デスクトップは、Polycom CMA 管理ソリューションと緊密に統合されているため、システム管理者はネットワーク上のビデオ会議ソフトウェアアプリケーションを今まで以上に高度なレベルで管理できるという。

Polycom CMA は、11 月よりポリコム認定販売代理店を通して販売される。本体のメーカー希望小売価格は、357 万円(税別)から。ポリコムのインプリメンテーションサービス(有償)とともに提供される。

ポリコムジャパン、複数の多地点会議サーバの効率的な一元管理と運用を可能にするソリューションを発表



Polycom DMA 7000



Polycom DMA 7000 操作画面

ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)は、大規模ビデオネットワーク環境での多地点ビデオ会議の負荷分散と管理を行う「Polycom DMA 7000」【Polycom Distributed Media Application(ポリコム・ディストリビューテッド・メディア・アプリケーション)】を発表した。(10 月 15 日)

Polycom DMA 7000 は、複数のビデオ会議多地点サーバ「Polycom RMX 2000」を効率的に集中管理するためのシステムで、多数の多地点サーバを設置した大規模にビデオ会議システムを導入している企業向けのソリューション。分散して複数設置されている多地点会議サーバのリソース(システ

ムの処理能力やポート数を包括的に捉えた言葉、そのシステムのキャパシティとも言える。)を一元的に集中して運用管理することで、個々にサーバを管理するよりも、サーバのリソースを無駄にせず、コストの面においても効率的な運用管理が可能になる。換言すれば、ビジネスニーズに対応する信頼性や拡張性、耐障害性を実現しながら複数のサーバをあたかも一台のサーバのごとく容易に運用管理が行えるようにするシステムが Polycom DMA 7000 と言える。

Polycom DMA 7000 の特長は以下の通り。(1)Polycom DMA 7000 で管理されている Polycom RMX 2000 サーバにニーズに応じて拡張モジュールを追加するだけで、既存のサービスへ影響をあたえずに、また煩雑な作業を行うことなく、ポートの仮想プール(複数の RMX 2000 サーバのポート数を仮想化によってひとつの多地点サーバリソースと見なすこと。)の拡張を簡便に行える。

(2)サーバや分散構成、あるいはデータベースといった点で冗長化を実現しているため、複数管理されているサーバの一部に障害が発生しても、システム全体への障害波及を回避できる。また通話の負荷を分散することで、ネットワーク障害やサーバの負荷が集中した際に、リアルタイムでビデオ会議の通話を自動でルーティングすることも可能だ。

(3)Polycom DMA 7000 は、アクティブディレクトリーとの統合や共通データベースの利用、あるいは集中管理を行うことで、プロビジョニング、レポート作成、システムのメンテナンスやアップグレードなどの管理作業を効率化する。システム管理者は、システムのメンテナンス、ソフトウェアのアップグレード、機器のアップグレードを通常の就業時間中に多地点サーバなどの稼働に影響をあたえずに行うことができるため、コストの削減とともにダウンタイムの発生をおさえることが可能だ。

Polycom DMA 7000 は、11 月よりポリコム認定販売代理店を通して販売される。本体のメーカー希望小売価格は、542 万円(税別)から。導入には、Polycom DMA のライセン

スと Polycom RMX 2000 サーバが別途必要。Polycom DMA 7000 は、ポリコムインプリメンテーションサービス(有償)とともに提供される。

ポリコムジャパン、Polycom HDX リリース 2.5 発表：HDX シリーズと、端末管理とデスクトップビデオを提供する CMA ソリューションを統合

ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)は、Polycom HDX シリーズの最新バージョン「Polycom HDX リリース 2.5」を発表。(11月12日)Polycom HDX シリーズは、同社が販売する HD 対応のビデオ会議システム。

今回の最新バージョンで、Polycom HDX シリーズは、CMA ソリューション【Polycom Converged Management Application(コンバージド・マネージメント・アプリケーション)】との統合が可能になった。

「今回両者を統合することで、デスクトップから役員会議室までユーザの多様な用途、スペース、予算の要件に合わせて、これまでにない幅広いビデオ通信ソリューションのシームレスな連携を可能にし、これらの効率的な一元管理を実現する。」(ポリコムジャパン)

Polycom CMA ソリューションは、プレゼンスペースのダイアリングやビデオ会議端末の一元管理、プロビジョニングなどにより大規模ビデオネットワークのシンプルな管理を可能とする機能の他に、デスクトップビデオアプリケーションである「Polycom CMA Desktop(ポリコムCMA デスクトップ)」を提供しているソリューション。

HDX シリーズと CMA ソリューションを統合することで、以下のような特徴がある。

(1) 共通の連絡先リスト内のプレゼンス情報(オンライン、オフライン、通話中、応対不可)を共有することができ、この連絡先リストは企業ディレクトリ(Active Directory、LDAP))に連動させることが可能。ダイアリングはプレゼンススペースのため、CMA Desktop に表示される連絡先リスト内の名前を選択して、簡単に通話ができる。

(2) Polycom HDX シリーズのアップグレード、プロビジョニングについては、標準ベースの管理プロトコルを使用して容易に実施できる。

その他、Polycom HDX リリース 2.5 としては以下の機能が追加された。

(1) 内蔵 MCU(多地点接続)機能が強化され、HD 解像度及び標準解像度(SD)での画面分割機能がサポートされている。ただし、HDX シリーズの中で一部モデルは非対応となっている。

(2) Polycom HDX ビデオ会議システムと「SoundStation IP 7000」音声会議システムとの統合がサポートされている。これにより、SoundStation IP 7000 のダイヤルパッドやボタンで、ダイヤル、ボリューム調整、コンテンツ共有を行ったり、SoundStation IP 7000 をビデオ会議システムの音声マイクとして使用することができる。

「ポリコムは従来のビデオ会議を先進のビジュアルコミュニケーションへと変革する Polycom VC2 というビジョンのもと、いつでも、どこでも、誰にでも簡単に使える高品質なビデオ会議の提供、シンプルな導入・運用・管理と安全性・信頼性・拡張性の高いソリューションの提供により、ビデオ会議のさらなる利用を促進する。Polycom HDX 及び Polycom CMA は、この VC2 のビジョンを実現する製品群の主要コンポーネントだ。」(ポリコムジャパン)

キャノンソフト情報システムの IC3、ポリコム社製ビデオ会議システムと相互接続を可能とするオプションの発売

キャノンソフト情報システム株式会社(大阪府中央区)は、「IC³」と、ポリコム社製ビデオ会議システムを連携させるソフトウェア「IC³ extension Media Relay(アイシーキューブ エクステンション メディアリレー)」のオプション製品として発売した。11月20日より。

Media Relay を利用することにより、ハードウェア型のポリコム ビデオ会議システムとの相互接続が可能になる。専用端末と PC 型が連動することで、専用端末を設置できな

い拠点では、IC³ を利用することでテレビ会議の活用範囲を広げるとともに、利用拡大の際のコスト負担を軽減することが可能という。

ウィルコムとウィルコム沖縄、最大 7 名までの音声同時通話ができるサービスを開始

株式会社ウィルコム(東京都港区)および株式会社ウィルコム沖縄(沖縄県那覇市)は、ウィルコム同士で最大7名での同時通話が可能になるサービス「ウィルコム ミーティング」を11月4日より開始した。

ウィルコム ミーティングは、申込不要でウィルコムの電話機からいつでもウィルコム同士で最大 7 名での同時通話が可能になるサービス。

「ウィルコム定額プラン」や「新つなぎ放題+話し放題」を契約しているユーザであれば、通話料が24時間無料でウィルコム ミーティング利用料のみで利用できる。あらかじめメールアドレスを知っている相手とだけの利用が可能で、ビジネスマンの打合せの他、離れた家族間の会話、サークル活動の連絡などさまざまなシーンで複数人との同時通話を安心して利用できると同社では説明する。

ミーティング開始方法は、まずミーティング主催者がウィルコム公式サイトのトップページから専用サイトにアクセスし、ミーティング登録を行う。登録が完了すると、主催者と参加者に招待メールが送信される。そのメールを受信後そのメール内にリンクされているミーティングルームアクセス番号をクリックすることで、指定のミーティングルームへ接続が可能。その際にガイダンスによるキー操作がある。

ウィルコム ミーティング利用料は、10.5 円/60 秒。月額上限が 1,050 円(税込み)となっている。

利用事例

三井住友海上火災保険、全国 320 拠点に Web 会議システムを導入

三井住友海上火災保険株式会社(東京都中央区)は、ペーパーレス会議やパソコンを活用した遠隔地間の会議(WEB 会議)を可能とする電子会議システムの導入を開始する。本会議システムは、2009 年 1 月末から国内すべての店舗にて本格稼働する予定。

全国 320 店舗にモニターを設置し、専用パソコンを配置することで、電子会議システムを実現する。資料を紙で配布せずパソコンと接続したモニター画面上に表示することでペーパーレス会議を実現。また会議は、パソコンにマイクなどの周辺器機を接続し、画面上に映像や資料を表示させることで社員が集まることなく遠隔地間の会議を行う。

今回の導入は、同社における中期経営計画「ニューチャレンジ10」の主要取り組みであるオフィス・イノベーションの一環。最新の IT、オフィスに関する技術や考え方を導入して、新しい業務プロセスに最適で生産性・効率が高く創造性を発揮できるオフィス環境を実現することを目的としている。

導入によって、業務プロセスにおける経費削減や効率化、意思決定の迅速化、会議運営の効率化などが実現し、結果顧客サービスの向上に寄与できると同社では期待している。たとえば、資料作成時間や移動時間・コスト、CO₂ の削減、会議で配布する紙資料の削減などだ。同社では、ペーパーレス化により複写費が 0.6 億円、CO₂ の削減が年間 40 トン、交通費が 1.7 億円削減見込めると考えている。

三井住友海上火災保険株式会社

<http://www.ms-ins.com/>

ポリコムのテレプレゼンス、ブロードウェイミュージカル『RENT』日本公演のための日米制作会議に貢献

ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)は、同社のテレプレゼンスソリューションである「Polycom RPX HD」が、『RENT(レント)』日本公演(東宝製作)の製作を進め

る際、日米間におけるスタッフのコミュニケーションに活用されたと発表した。

RENT 日本公演の製作のため、東京とニューヨークのクリエイティブチームが、ポリコム（Polycom）の東京とニューヨークのオフィスに設置された Polycom RPX を使用して複数回にわたり会議を行った。

RENT 制作担当者によると、日本で公演するにあたり、ニューヨーク在住の演出家、セットデザイナー、コスチュームデザイナーと緊密に打合せを重ねる必要があり、メールや電話、簡易なビデオ会議ソフトウェアなどでのコミュニケーションでは大人数での議論をするには限界があったという。今回ポリコムの協力で、会議や交渉を、ストレスを感じることなく円滑に行うことができ時間、労力、コストの大幅な削減ができたという。

RENT

<http://www.tohostage.com/rent/index.html>

シスコと CTC、WebEx のバーチャル教室によるシスコ認定トレーニングの提供開始

シスコシステムズ合同会社（東京都港区）は、伊藤忠テクノソリューションズ株式会社（東京都千代田区、CTC）は共同で、各自自治体におけるソフトウェアセンターなどと協業し、ネットワークエンジニアのトレーニングを WebEx にて行い、地方における人材育成を支援することを発表した。（10月27日）

シーティーシー・テクノロジー株式会社（東京都千代田区）が 11 月より提供する。同社は、伊藤忠テクノソリューションズの 100%子会社。シスコ認定トレーニングソリューションズパートナー。

WebEx を使ったシスコ認定トレーニングでは、バーチャル教室を構築し、首都圏にある教室を共有することができる。各地方では PC とインターネット回線を備えるだけで、教室での受講と変わらない質の高いトレーニングを受けることができる。ルータやスイッチなどのネットワーク機材の設定といった実機演習もインターネットで教室環境と同様の操作を行える。

ネットワークエンジニアの基礎となる CCNA 資格に対応したトレーニングや TCP/IP、Voice over IP のトレーニングなどを展開。WebEx を活用したシスコ認定トレーニングに、伊藤忠テクノソリューションズによると、初年度 4,000 人、3 年後 10,000 人のエンジニアの受講を目指す。

セミナー・展示会情報

<国内>

LifeSize Communications 社 新製品発表会（大阪、福岡）

日時：12 月 2 日（火） 16:00～2 時間程度

会場：日立ハイテクノロジーズ 関西支店

*福岡会場へはテレビ会議による同時中継

主催：株式会社日立ハイテクノロジーズ

詳細・申込：

http://www.hitachi-hitec.com/jyouhou/hitec-vision/event/20081117_001.html

LifeSize Communications 社 新製品発表会（東京）

日時：12 月 9 日（火） 16:30～2 時間程度

会場：日立ハイテクノロジーズ 本社

主催：株式会社日立ハイテクノロジーズ

詳細・申込：

http://www.hitachi-hitec.com/jyouhou/hitec-vision/event/20081117_001.html

No Web 会議！ WebEx で会議はしません？！

～ 目からウロコの WebEx 活用法 ～

日時：12 月 9 日（火） 14:00～15:00

会場：Webセミナー

主催：ウェブエックス・コミュニケーションズ・ジャパン株式会社

詳細・申込：

http://www.webex.co.jp/jp/web-seminars/webseminar_120908.html

編集後記

今回もお読み頂きまして有り難うございました。

10 月に開催された日経 BP 社の IT pro Expo のレポートですが、12 月 15 日号に掲載する予定です。

また 12 月末号は例年通りお休みをいたします。来年は、1 月 15 日からスタートする予定です。

CNA レポート・ジャパン 代表 橋本 啓介